

## 生成 AI（対話型 AI）の利用に関する本学の方針について

学長 角山剛

### ■ はじめに

生成 AI（対話型 AI）とよばれる人工知能が急速に普及し、ChatGPT や Bing など、誰もが手軽に使える身近なツールとなっています。PC やスマホで質問やキーワードを打ち込めば、たちどころによどみのない文章で答えが生成されることから、すでに国や自治体、企業をはじめ、さまざまな分野で生成 AI を導入する動きも出ています。まさに爆発的な進化といっても言い過ぎではない状況であり、生成 AI に関するニュースや話題を目にしない日はありません。

ただ、生成 AI は技術的にはまだ発達途上であり、今後どのように進化していくのか、どのように利用すべきかについては、現在世界中で活発な議論が続いています。生成 AI を活用することは、学校教育の中にも早晚入ってくることと思われれます。

そこで生成 AI の利用に関して、皆さんにもぜひ考えていただきたいと思います。

### ■ 正しい情報であるか？

皆さんの中には、授業や卒業研究などで生成 AI を用いれば、労力をかけずにレポートや卒業論文が作成できると考える人も多いと思います。けれども、それを実行する前にぜひ皆さんに考えてもらいたいこと、注意してもらいたいことがあります。

ChatGPT を例にとれば、示される解答・回答は、あくまで AI が学習した大量のテキストデータの中で生成されたものであり、それが正しいかどうかについては、現段階では何ら保証はありません。いかにスムーズによどみのない文章が生成されても、その内容が正しいか間違っているかは、最後に皆さん自身が判断しなければなりません。その判断できる力を養うのが、大学における「学び」です。学びを深める中で考える力が育ち、知の力が生まれます。その継続がやがて教養となって皆さんの人格に幅と深みをもたらすのです。

レポートや論文作成を安直に生成 AI に任せ、自ら考えることを放棄してしまうような使い方は、大学での学びには役立ちません。学ばずして安易な道を選ぶことは、後に大きな負債となって自分に跳ね返ってきます。

## ■ 生成 AI とどのように向き合うか

生成 AI は私たちの生活を一変させる可能性をもつ、革命的な技術であることは間違いありません。生成 AI はこれからさらに進化し、パソコンやスマホと同様に、私たちの生活のあらゆる場面で欠かせないものとなっていくでしょう。

けれども、その影響の大きさや影響の範囲はまだ未知数です。素晴らしい技術である反面、私たちの社会とどこまで共存できるか、使い方によっては社会の脅威ともなりかねません。そうした懸念は現実を広まっており、技術への期待と共に議論が日々交錯しています。

生成 AI の社会への浸透が必然な流れとなっていくとき、その流れとどのように向き合っていくのか、私たち一人一人がこれから真剣に考えていかねばなりません。安易に個人情報や機密情報を入力すれば、それはデータとして AI が利用することになり、他者の権利侵害だけでなく犯罪にも悪用されかねません。著作権の保護や倫理的な問題についても、まだルールは確定しておらず、多くの国々で議論が沸騰しています。

## ■ 学びに生かせる利用を

生成 AI は大変便利なツールであり、こうしている間にもその性能は進化し続けています。利用の仕方によっては皆さんの学びを促進する上でも大いに役に立つでしょう。ただし、安易に生成 AI に頼ることのないよう、使い方には十分な注意を払わねばなりません。皆さんが本学での学びを通して真に知の力を身につけるためにも、生成 AI というツールのもつ特徴を理解し、自分の学びにとってどのような使い方が適切であるのか、ぜひ自分事として考えていただくことを、大学として強く望みます。

以上

◎授業や学習面での生成 AI の使用に関する具体的な指針については、追って告示します。